マーケット・レポート

Weekly Guide 2026.11.02

りそなアセットマネジメントのYouTubeチャンネルで、音声付きの解説動画をご視聴いただけます！

主要マーケット指標



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

先週は、日・米・欧の金融政策会合を波乱なく消化したものの、AI関連企業の決算発表を契機にAI過剰投資の懸念が再燃し、株式市場ではテクノロジー株から非テクノロジー株への資金シフトが進みました。主要株価指数の週間騰落率は、S&P500指数が▲0.6%、ナスダック総合指数は▲2.0%、独DAX指数+2.5%、日経平均株価は+1.0%で終えました。一方、安全資産の債券には引き続き投資資金が流入し、10年国債利回りは、米国が前週末比▲7bpの4.93%、日本は同▲2bpの2.78%に低下しました。ドル円は156～157円台でもみ合いが続きました。

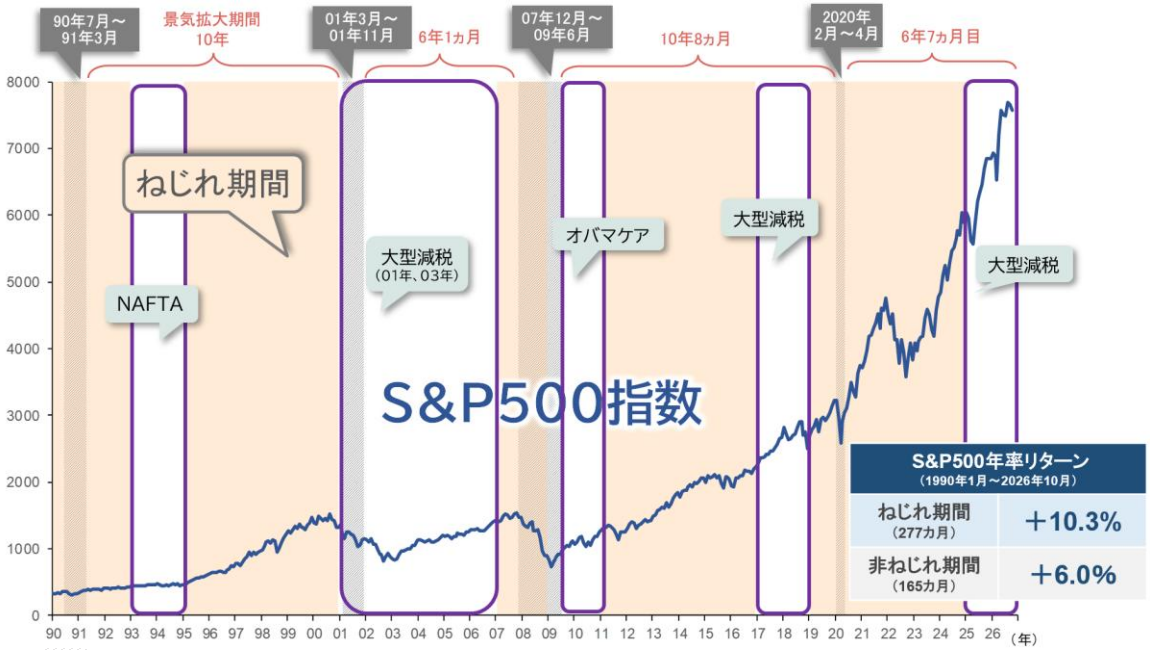
今週は、3日に米国中間選挙が行われます。野党民主党が上・下院両方で過半数を獲得するかが焦点となります。経済指標では米雇用統計、各国PMIが発表され次回12月FOMC・ECB理事会での利上げの有無を見極める材料となります。また、アップルなど、日米主要企業の決算発表がピークを迎え、期待通り堅調な企業業績が示されるか、注目されます。

当面の注目イベント

★中・10月製造業PMI	（2日）
★米・10月ISM製造業景況指数	（2日）
◆米・中間選挙	（3日）
◆米・9月JOLTS（求人数）	（3日）
◆10月グローバル総合PMI	（4日）
◆米・10月雇用統計	（6日）

★：りそな景気先行指数関連指標

1990年以降、米大統領府（ホワイトハウス）と上・下両議会のいずれかで支配政党が異なる、“ねじれ”状態の期間は約6割を占めます。S&P500指数のパフォーマンスでは、“ねじれ”期間が“非ねじれ”期間を上回ります

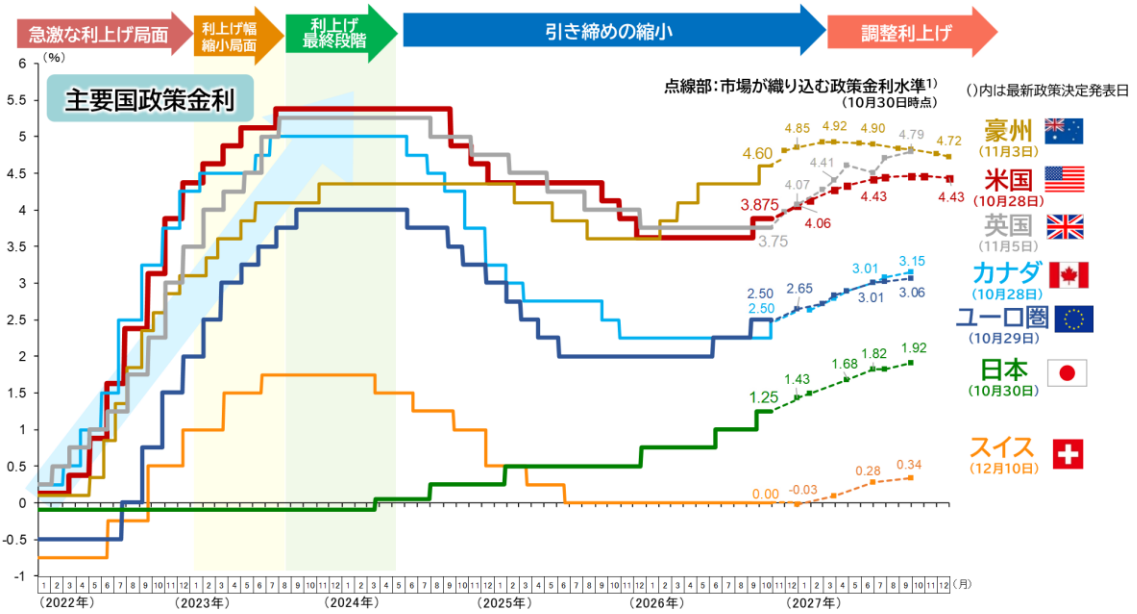


：米景気後退局面

【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

※最終ページの＜当資料に関するご留意事項＞を必ずご覧ください。

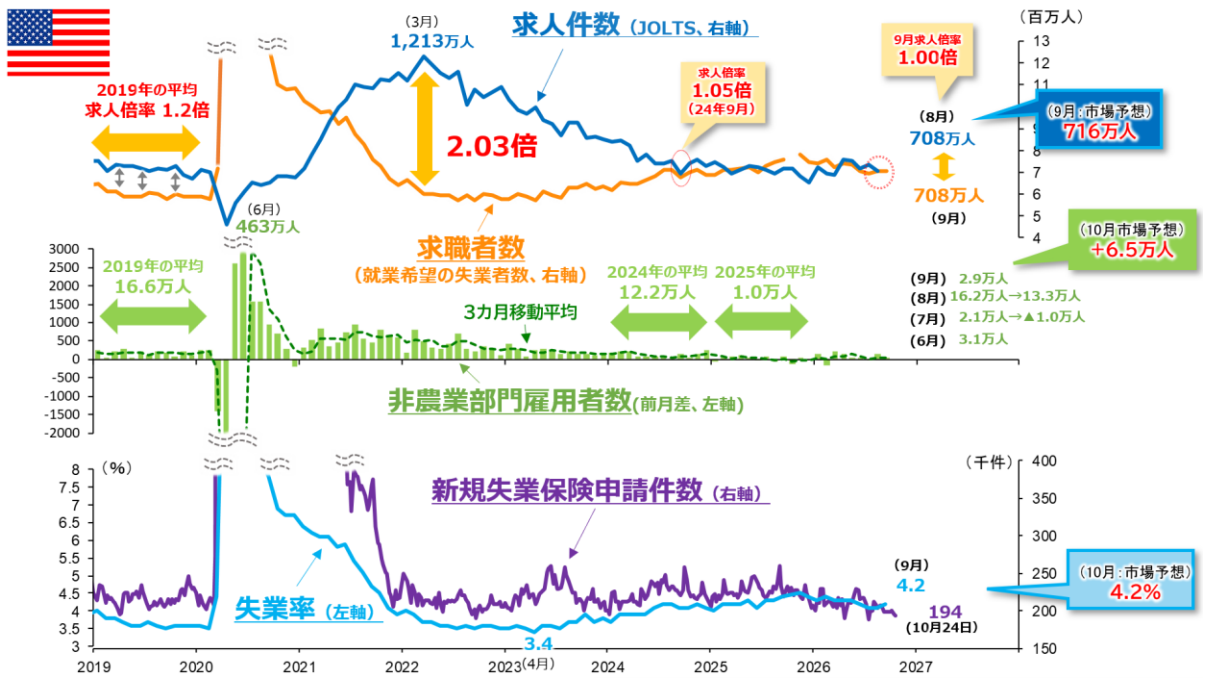
今週は、豪州中銀が2会合連続の利上げ、英国は3年2カ月ぶりの利上げに踏み切ると予想されています。先週はカナダが3年3カ月ぶりに利上げを再開しており、G7国が揃って利上げに転じることになります



1）米国・オーストラリアは先物、その他はOISが織り込む政策金利水準
2）日本の政策金利：2024年3月19日までは日銀当座預金金利、2024年3月21日以降は無担保コール翌日物

【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

今週発表の10月米雇用統計では6.5万人の雇用増が予想されています。予想を上回った場合、市場が織り込む12月FOMCの利上げ確率が、現在の7割程度から更に高まり、金利上昇・ドル高を促すとみられます



【出所】BLS、Haver Analyticsの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

次回は 2026年11月9日 発行予定です

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。